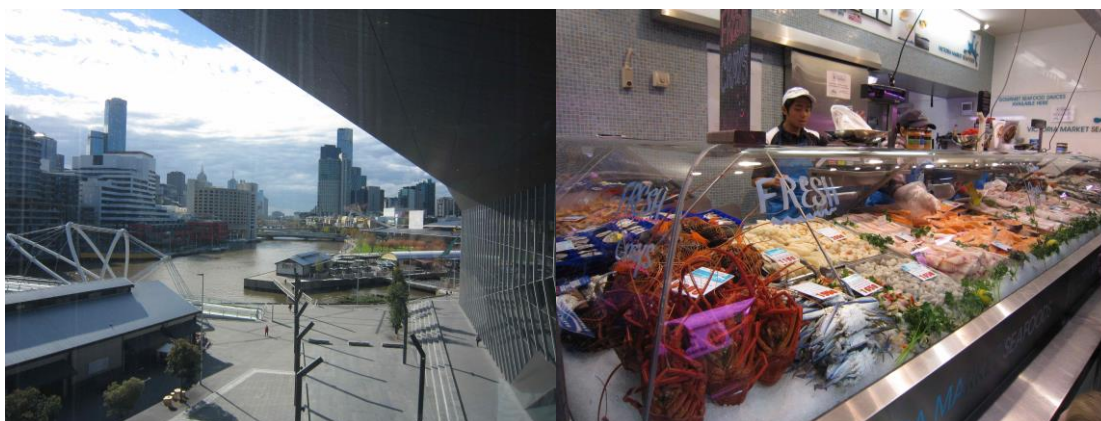


国際磁気共鳴医学会 (The International Society for Magnetic Resonance in Medicine: ISMRM)

長田周治

はじめに

オーストラリア、メルボルンで開催された第 20 回 ISMRM (学会期間: 2012 年 5 月 5 日～11 日) に参加させていただきました。メルボルンはオーストラリアの南東部のポート・フィリップ湾に面した人口約 400 万人の港湾都市です。イギリス風の建造物が多く残っており、のんびりして住みやすいという印象から、2011 年のエコノミスト誌の「世界で最も暮らしやすい都市ランキング」で一位を獲得しています。アメリカやヨーロッパで開催される学会とは違い、オーストラリアは時差が少ない分 (メルボルンは 1 時間)、楽でした。 ISMRM には 2008 年から連続して 4 回目の参加となりました。これまでは 1 人で出席する事が多かったのですが、今回、整形外科の平岡弘二准教授と 2 人で参加しました。



左：学会場のMelbourne Convention & Exhibition Centreから見たメルボルン市街。ヤラ川を挟んで高層ビルが立ち並んでいます。

右：クイーン・ヴィクトリア・マーケット 新鮮な海の幸が、日本より安い値段で売られています。

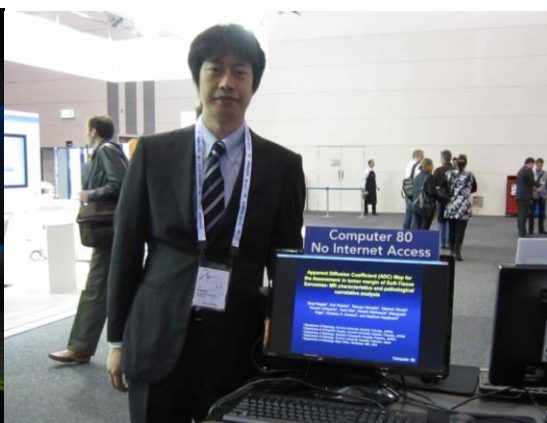
学会

ISMRM とは磁気共鳴医学における技術開発、基礎的研究から臨床応用までを網羅した、MR 医学における世界最高峰の学会です。MRI は数ある画像診断のモダリティの 1 つに過ぎませんが、その研究分野や発表内容は多岐に及んでい

ます。学会では、土曜日と日曜日の2日間に Weekend Educational Course があり、MRI の主要な分野について専門家による教育公演が行われます。続く Annual Meeting では、月曜日から金曜日まで連日、習熟度別に clinical intensive course といった基本 (解剖や基礎物理など)から hot topics まで幅広い内容を網羅したレクチャー、口頭やポスターによる研究発表が行われます。



初日の plenary session の風景



発表の電子ポスター前で

メインホールでは、plenary session が行われました。学会初日のテーマは、“How Compressed Sensing will Change the World of MR” でした。Compressed Sensing における注目度の高さがわかります。MRI はいかに高速にデータを収集するか、もしくは少ないデータ量で画像を再構成するか、という命題を常に突き付けられています。これまで、傾斜磁場強度、スリューレートの向上、k-space Sharing やパラレルイメージングにより、飛躍的に撮像時間が短縮されてきましたが、Compressed Sensing は、さらなる高速撮像につながる画像再構成法です。後処理時間の問題があるとのことでしたが、Compressed Sensing 関連の演題も数多く発表されており、近い将来、臨床へ現場で用いられるようになるかと確信しました。

我々の発表のタイトルは “Apparent Diffusion Coefficient (ADC) Map for the Assessment in tumor margin of Soft-Tissue Sarcomas: MR characteristics and pathological correlative analysis” でした。軟部肉腫の多くは、腫瘍周囲に T2 強調画像で高信号を呈する反応層が出現します。この反応層により、腫瘍の境界が不明瞭となり、腫瘍範囲の評価が困難となることを、しばしば経験します。我々は、腫瘍と反応層の境界を、拡散強調画像で視覚的に明瞭に評価できるか、そして、病理学的に反応層における腫瘍細胞の有無と ADC 値の関係を検討しまし

た。

学会の中日には、ワイン通である平岡先生と一緒に、オーストラリアを代表するワインの産地、ヤラバレーへ行きました。快晴のなか、メルボルンから 1 時間ちょっとのショートドライブで、ぶどう畑がひろがる丘陵地に到着。ワイナリーに併設するレストランで、素晴らしい景色とおいしい料理に舌鼓を打ちながら、のんびりと過ごしました。思い出に残る 1 日となりました。



左：整形外科の平岡弘二准教授。右：ヤラバレーにて。ワインを 1 本購入しました。

おわりに

今回の国際学会への参加に際し、早渕尚文教授、医局長代行を引き受けてくれた甲斐田勇人先生、CT・MRI センターの業務をカバーして頂きました先生に深謝いたします。